

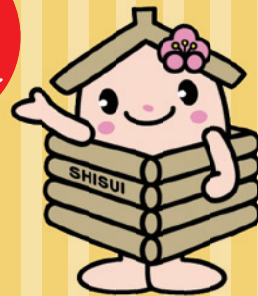
若者がつくる広報ニューしすい

2021
令和3年

YOUNG EYES

第10号

令和3年3月発行



酒々井町マスコットキャラクター
井戸っこ(しすいちゃん)

私たちが見る酒々井、
あなたが住む酒々井



広報ニューしすいYoungEyes第10号編集委員の吉田瑛美香さんと澤田健さんは、お二人とも町外に住む淑徳大学経営学部観光経営学科の2年生です。今回の広報ニューしすいYoungEyesでは、酒々井町を見たことがなかったお二人に町内をフィールドワークをしてもらい、それぞれが一番関心を持った場所についての記事を書いていただきました。

フィールドワークに行った場所は、町の公共施設や町内の公園・住宅街から観光名所、酒々井プレミアム・アウトレットなど、日頃町民の皆さんが暮らす身近な生活環境。その中から、吉田さんは「子育て支援センター あいあい」を、澤田さんは「国史跡本佐倉城跡」について特集しました。

町外に暮らす若者が見た『酒々井町』はどのように見えたのか、ぜひ一度目を通してみてください。



発行・編集／広報ニューしすいYoung Eyes編集委員会 酒々井町企画財政課広報広聴班

〒285-8510 千葉県印旛郡酒々井町中央台 4-11 ☎043(496)1171

安心して子育てができるように

子育て支援センター あいあいを見学して

よしだ
吉田 瑛美香



子育て支援施設「子育て支援センター あいあい」は、就学前のお子さんと保護者の方が気軽に交流できる施設です。実際に私たちが取材に行ってみて感じたことは、スタッフの方と施設を利用していただいた子どもたちの笑顔あふれる温かい雰囲気でした。



「あいあい」では、多くのボランティアの方も活動されていて、読み聞かせや折り紙などさまざまなイベントが行われています。「ジーバーズ」というボランティア団体では、飛び出す紙芝居という人形劇を行ってくれるそうです。子どもたちにとっては多くの言葉を聞いたり、幅広い年代の方に出会うことができたりと、とても良い環境だと感じました。

施設の中には、食事ができるスペースや簡単な調理実習が行えるランチルーム、さらには授乳スペースがあり、お子さんの年齢に合わせた支援が充実しています。

施設の利用状況は、0歳から1歳の子どもを持つご家族が多いと聞きましたが、年齢を問わず楽しめる施設となっています。

現在は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、人数制限や食事禁止の制限などを行っています。交流の場を増やすという意味でも、たくさんの方が「あいあい」を活用できればよいと思います。

ご家族だけで子どもに向き合うことはとても大変で難しいこ

とだと思えます。「同世代の子どもを持つ友人がいないから、悩みを共有できない」「子育てに不安がある」「育児に少し疲れてしまった」そんな時は、どうか自分たちだけで悩まずに「あいあい」へ訪れることをお勧めします。スタッフの方々が笑顔で迎え入れてくれ、ご家族やお子さんを第一に考えてくれる素敵な施設



飛び出す紙芝居



です。友だちづくりに一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



施設職員へのインタビューの様子



お勧めしたい観光スポット

国史跡本佐倉城跡・国史跡本佐倉城跡案内所

さわだ たける
澤田 健

○本佐倉城跡の沿革

本佐倉城跡は、中世戦国時代に千葉輔胤によって築城されました。千葉氏は桓武平氏の流れをくむ武家で、鎌倉幕府創設に大きく貢献したことにより下総の守護の地位にありました。そんな千葉氏が戦国時代の100余年、9代に渡り下総国を統治する本拠として本佐倉城は築城され、下総国の政治・経済・文化の中心として栄えました。本佐倉城跡の外郭群を含めた面積は、酒々井町と佐倉市にまたがる35ヘクタールに渡り、そのうち内郭群の約10・8ヘクタール(うち酒々井町は約9ヘクタール)は、平成10年9月に国史跡に指定されています。

○本佐倉城跡の特徴

本佐倉城跡は『土の城』です。城外から外郭、内郭へ向かうと、大規模で堅牢な空堀や土塁などが配置されており、戦いのための城であったことが伺えます。現在でもほぼ完全な姿で残っており、その文化的価値の高さは国史跡へ指定となった理由の大きな一つでもあります。

また、城の周囲には酒々井宿や本佐倉宿などの城下町が展開されていました。現在でも各所に屋敷名称などが伝承されています。

▼国史跡本佐倉城跡案内所の内観



▶城山通路



▶奥ノ山(内郭)

○本佐倉城跡の楽しみ方

戦国時代当時の家屋や門などの建築物は残されていませんが、それらの痕跡は多く残され、保存整備が進められています。町では「本佐倉城跡散策マップ」を作成しホームページでも公開しているので、ぜひ説明を読みながら散策してみてください。(※) また、酒々井町の公式アプリ「酒々井ぶらりマップ」の本佐倉城再現VRを使用することで、スマホやタブレットで当時の門や通路、虎口などの再現を見ることが出来ます。散策マップやアプリを使いながら実際に回ると、戦国時代の城を体感することが出来ます。

さらに、令和2年1月30日には、「国史跡本佐倉城跡案内所」の開所式を行いました。施設では本佐倉城跡と千葉氏の概説パネルや発掘調査で出土した遺物が展示しており、前述の散策マップなどのパンフレットも配布しています。ぜひ立ち寄ってみてください。(緊急事態宣言終了までの間、休館しています。)

私が行った日にはあいにくの曇りで見えなかったのですが、天気の良い日には眺めのいい高台から筑波山を眺めることができるそうです。町民の皆さんも、また、酒々井に訪れた町外の皆さんも、ぜひ一度本佐倉城跡に訪れてみてください。

国史跡本佐倉城跡案内所

住所 千葉県印旛郡酒々井町本佐倉825
 開館時間 9時～16時30分
 館内 ガイダンス展示・パンフレット配布など
 休館日 毎週月曜(月曜が祝日の場合はその翌日)、
 休日の翌日、年末年始
 TEL 043(376)5747
 FAX 043(376)2857



本佐倉城跡からの田園風景



まとめ

皆さんは、広い空間と狭い空間どちらのほうが時間の流れが遅いと感じますか？
 多くの人は広い空間と答えるそうです。時間の流れが遅いと何となく心の余裕も生まれるのではないのでしょうか。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止などで家にいることが多くなってしまい、家にいることがストレスと感じる人が増えています。これからの時代、暮らす場所を考えるうえで今まで以上に「空間と時間」が重視されるのではないのでしょうか。

私たちは、今回記事を書くにあたって初めて酒々井町に訪れました。訪れる前は「酒々井プレミアム・アウトレットがあるくらい？」の認識でしたが、取材を進めるにつれて「空間と時間」に余裕がある酒々井町の魅力に気づきました。高い建物が少なく、自然が豊かであることは酒々井町という街の歴史を昔から守り続けているのだらうと感じました。町の面積は周辺の市町と比べて小さいですが、家は一つ一つが大きく、町に住む人たちは「空間と時間」に余裕を持ち、ゆっくりと生活ができるのだらうと感じました。また、町の中には公園がたくさんあり、子育て支援施設など、子どもたちがのびのびと遊びながら成長できる環境が多くあります。そして何より町の人の温かさが魅力的でした。

酒々井町に行ったことのない方、酒々井プレミアム・アウトレットしか知らないという方も、ぜひ観光で訪れてみてください。酒々井町の魅力がたくさん隠れています。

この記事を通して、酒々井町へ行ったことのない方々が訪れるきっかけの一つになり、「酒々井町はやっぱ良い街だな」と思っていただけなら私たちも嬉しく思います。

この記事を書くにあたって、酒々井町の魅力をより深く知るため、町在住のファイナンシャル・プランナーである重定賢治様よりたくさんのお話をお伺いしました。ご協力いただきましてありがとうございます。



重定賢治さんとの座談会の様子

淑徳大学との連携事業

「清光寺史料調査 襖はまるで宝箱？」



上本佐倉にある浄土宗寺院の清光寺は、弘治2(1556)年開基と長い歴史を持っています。しかし、令和元年の台風15号で甚大な被害を受けたことにより、本堂や庫裏の取り壊しが検討されています。このままでは貴重な歴史史料を消失する恐れがあるため、酒々井町と淑徳大学が連携して「清光寺史料調査」を実施することになりました。

昨年8月26日に行われた調査では、襖の下張り文書を剥がす作業を行いました。なぜ襖の下張りが文書なのか、疑問に思いませんか？襖の内側には強度や防寒のため紙を張りますが、紙が貴重であった時代、不要となった古文書を張っていたのです。

襖の中から出てきた古文書には「蔵人家康「大樹寺」と書かれたものがあります。ここ清光寺は、家康の父・広忠の歯骨墓があり、葵の紋を許可されているなど徳川家所縁の寺院です。大樹寺は、愛知県にある徳川家の菩提寺です。二つは離れた寺院ですが、どちらも浄土宗寺院で徳川家にゆかりがあることから、深い関係があったのではないかと考えられます。

このように古文書からは当時の様子を読み取ることが出来ます。当時の人が不要に思ったものでも、私達にとっては当時を知る手掛かりとなるのです。

下張り文書を剥がすのも苦労、古文書の数も未知数です。調査は引き続き行いますが、まだ見ぬお宝に胸を高鳴らせています。